

平成 11 年 3 月、当時 18 才の次男圭司さんの命が少年 3 名の集団暴行により奪われました。暴行のきっかけは「電話に出なかった」「生意気」というたわいないこと。そうした理由で少年たちに呼び出され、殴られ蹴られ川に落とされたのです。

娘さんの受けたいじめや大津市のいじめ事件にも触れ、「知っておいてほしいことがあります。何の気なしにしているいじめ（本人はいじめとっていないかも知れない）が死につながっているということを。もしも悩んでいたら、勇気を出して周りの人に相談してほしい。必ず聞いてくれる人がいるから。・・・」と訴えました。

最後に 2 つのことをみなさんにお伝えしたいと、言葉を残されました。

1 つ目は「被害者になることは避けられないけれど、加害者になることは避けられる」ということ。2 つ目は息子が死んでから 13 年間、自分も死んでしまいたいと思うことがありました、けれど、生きているうちに楽しいこと、うれしいことがたくさんありました。みなさん、どんな状況に置かれても、生きて生きて生き抜いてください。つらいこと、悲しいこともあるけれど、生きていればきっと楽しいこともあるから。今日は皆さんにお会いすることができて幸せです。そう締めくくられました。

11 月 26 日（月） 於：春日井市立西部中学校

演題「子供たちを被害者にも加害者にもしないために」

講師 おかやま犯罪被害者サポートファミリー 理事 市原千代子